



CVIT

第20回日本心血管インターベンション治療学会学術集会
ランチョンセミナー32

薬剤溶出性ステントの 普及による臨床現場の変化

How does drug-eluting stent change the cardiology practice?

座 長

山科 章先生 東京医科大学 内科学第二講座

演 題・演 者

血管内視鏡による新世代DES留置後の 血管治癒性状の評価

Angioscopic assessment of arterial repair following latest generation
DES implantation

粟田 政樹先生 関西ろうさい病院 循環器内科

日時 平成23年 7月23日(土) 12:00~13:00

会場 大阪国際会議場 G会場 (10F 会議室1008)
〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島5-3-51

ランチョンセミナーは整理券をセミナー当日に発行し、整理券をお持ちの方から優先的に入場いただきます。
発行場所、時間などの詳細は、ホームページや当日会場での案内をご覧ください。

Quality of Smile

血管内視鏡による新世代DES留置後の血管治癒性状の評価

Angioscopic assessment of arterial repair following latest generation DES implantation

栗田 政樹 先生 関西ろうさい病院 循環器内科

薬剤溶出性ステント (DES) 留置後の遅発性ステント血栓症の一因として、薬剤による新生内膜被覆不全や再内皮化障害、さらにはポリマーに対する過敏反応などが指摘されている。我々は生体に留置されたDESがどのような血管治癒を示すのかを検討するため、血管内視鏡による観察を続けてきた。その結果、新生内膜増殖抑制が強力な strong DESであるCypherステント (SES) は、留置後4年時点においても60%もの症例で新生内膜被覆不全を認め、再内皮化障害も懸念された。また、TAXUSステントにおいては、晩期喪失値がSESに比べて大きいにも関わらず、新生内膜被覆の不均一性により血管治癒が不完全な症例が散見された。一方、晩期喪失値が比較的大きな mild DESであるEndeavorステントにおいては、BMSに類似した良好な新生内膜被覆が確認された。しかしながら、mild DESゆえに複雑病変においてはstrong DESに比べ再狭窄率が高いことが懸念される。

近年、SESと同様にstrong DESであるNoboriステント (BES) およびXienceステント (EES) が使用可能となった。BESにおいては、薬剤 (バイオリムス) の脂溶性が高いことから、血管壁への均一な薬剤分布が期待されている。また、薬剤やポリマーは血管壁側のみに塗布されており、血管内腔側の血管治癒の向上が期待される。一方、EESはストラットがSESやBESに比べて薄く、ポリマーの生体適合性も高い。ゆえに新世代DESは、strong DESでありながら良好な血管治癒を示すことが期待される。事実、血管内視鏡でBESを観察すると、新生内膜被覆がSESよりも均一であった。また、EESにおいては、新生内膜被覆が良好な症例が70%を占めた。このように新世代DESに導入された技術革新がどのように血管治癒に影響するのか、さらにはDESの安全性を検討するうえで、血管内視鏡による血管治癒評価は非常に有用である。

また、本邦で複数のDESが使用可能となり、ステント留置後の日常診療にも変化が生じている。現在当院では各種DESの特性や血管内視鏡所見を参考に、フォローアップ時期やその検査方法に工夫をしている。本セミナーではDES導入に伴う診療の変化についても考察を加える予定である。